

厚生科研費「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

(H24-精神-一般-009)

厚生労働科学研究費補助金(障害者対策総合研究事業)分担研究総合報告書

研究分担者

森悦朗 東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授

研究要旨

青森、秋田、岩手、福島、山形、宮城の6県に地方支援拠点機関の設置を進め、高次脳機能障害支援普及事業を円滑に実施するための東北ブロック会議を2回開催した。各県ごとに特色ある高次脳機能障害者支援を推進し、東北ブロック間での情報交換を密にし、支援の地域格差是正、支援内容の均てん化を進めていくことにした。また岩手県盛岡市で医療・福祉・行政・教育関係者、当事者・家族ならびに地域住民に対して高次脳機能障害の理解について東北ブロックシンポジウムを開催し、高次脳機能障害者の自動車運転に関する講演を主たるテーマに普及啓発を行った。さらに、高次脳機能障害者支援には正確な評価・診断が重要であると考え、今年度も若手医師向けセミナー「夏の学校」を開催し、全国から20名の関連診療科の医師が参加した。高次脳機能障害の画像診断に関する研究も引き続き実施した。

A. 研究目的

1. 支援支援ネットワーク運用

- ・拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議(年度内2回)の開催。
- ・一般住民への高次脳機能障害の啓発と高次脳機能障害者へのサービス普及を図ることを目的に、東北ブロックシンポジウムの開催(1回)。

2. 診療技術向上のための教育活動として若手医師向けセミナーを開催(1回)。

3. 高次脳機能障害の発現の機序について神経科学的手法を用いて解明する。

B. 研究方法

東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学分野を中心として、東北厚生年金病院に事務局を置き、各県の協力を得て東北ブロック会議を開催する。また、東北ブロックシンポジウムを開催し、東北6県での高次脳機能障害者の地域支援体制を構築する。

個人データを調査するには下記の倫理面での配慮をなす。

(倫理面への配慮)

調査研究は所属する施設の倫理委員会の承認を経て実施する。調査対象者及び保護者・関係者から、文書等にてインフォームドコンセントを徹底し、調査対象者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。調査対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

C. 研究結果

東北ブロック会議を開催し、各県の現状把握と情報交換を図り、東北6県における高次脳機能障害支援普及事業を推進した。

東北ブロックにおけるさらなる支援普及を目指し、東北ブロックシンポジウムを開催した。平成24年度は福島県郡山市労働福祉会館で開催し、225名の参加があった。シンポジウム開催を機に各

県の主として一般住民の高次脳機能障害の理解が進んでいると考える。

高次脳機能障害の支援の前提である評価診断が重要であることをふまえ、平成24年8月には日本脳外科・神経内科・精神科・リハビリテーション科等の領域の若手医師を対象に行動神経学セミナー「夏の学校」を開催し、全国から29名の医師が参加した。

脳血管障害および正常圧水頭症における高次脳機能障害に関して神経科学的に検討し、いくつかの新知見を得た。

D. 健康危険情報 特に無し

E. 考察

各県での高次脳機能障害支援の均霑化にむけて研修会や巡回相談、実態調査等で状況把握に努めている。しかし、広域で中心部に一カ所の支援拠点機関(病院)では全県をカバーできない。また、拠点機関があっても支援体制が整備されなければ、評価・診断はできても高次脳機能障害者にとっての居場所が増えないのも事実である。

高次脳機能障害の理解は進んで来ているが、実際に評価し、診断し、各種の書類を作成できる医師が少ない。医療機関については評価できてもこれらの評価結果を分析し、支援につなげるためのプログラムを持っていない、あるいは退院後、在宅や就労に向けた支援のノウハウを持っていないため、協力病院に手を上げる医療機関が増えない。また支援の中心になるべき自立支援法で対応できる施設についても、高次脳機能障害の対応が分からないので受け入れられない、といった声も聞かれる。

一方で、ある拠点病院で、高次脳機能障害を一般の診療の中で診ることが出来るようになっていくように、地域の格差が広がっているのも事実である。こうした状況を踏まえて、まず医師が高次脳機能障害を理解し、診断し、各種の書類が書けるようにするために教育していく必要がある。ま

た、これまで拠点機関が蓄積して来たノウハウを地域の医療機関のスタッフに伝えていくための研修会や研修制度を整備し、協力病院や支援拠点病院として手を上げられるように進めていく必要がある。また病院での治療が終了した後に目を向けると、認知症ならば認知症研修センターがある。高次脳機能障害については担当職員の就労支援のためのスキルアップ研修も必要だろう。

東北ブロックでは、次年度もシンポジウムや若手医師向けのセミナーを開催していくこと、各県間のネットワーク構築をバックアップしていく予定である。

F. 研究発表

論文発表

Abe N, Fujii T, Suzuki M, Ueno A, Shigemune Y, Mugikura S, Takahashi S, Mori E. Encoding- and retrieval-related brain activity underlying false recognition. *Neurosci Res* 76:240-250, 2013

Ogura K, Fujii T, Suzuki K, Mori E. Pure agraphia in Romaji after left inferior frontal gyrus infarction: A case of selective deficit in syllable-to-grapheme conversion in Japanese. *Brain Lang* 127:1-5, 2013

Nishio Y, Hashimoto M, Ishi K, Ito D, Mugikura S, Takahashi S, Mori E. Multiple thalamo-cortical disconnections in anterior thalamic infarction: implications for thalamic mechanisms of memory and language. *Neuropsychologia* 53:264-273, 2014

Hayashi A, Abe N, Fujii T, Ito A, Ueno A, Koseki Y, Mugikura S, Takahashi S, Mori E. Dissociable neural systems for moral judgment of anti- and pro-social lying. *Brain Res* 1556:46-56, 2014

平成 25 年度東北ブロック事業報告

東北ブロック統括
東北大学大学院医学系研究科
高次機能障害学分野 教授 森悦朗

【平成 25 年度東北ブロック活動方針と実績】

1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用

- 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議(年度内 2 回)の開催。(第一回 岩手県産業会館 21 名参加、第二回 宮城県仙台市 23 名参加)
- 高次脳機能障害の啓発とサービスを利用していない高次脳機能障害者の減少を図ることを目的に、平成 25 年 10 月 27 日(日)東北ブロックシンポジウムを岩手県盛岡市岩手県産業会館にて開催。160 名の参加。報告書参照。
- 東北ブロックの支援体制の均恬化、および各県内での支援体制の均てん化を図る。各県の報告書参照。
- 高次脳機能障害の診断医養成のため、若手を対象に「高次脳機能のみかた医師向けセミナー 行動神経学 夏の学校」平成 25 年 8 月 4 日(日)、5 日(月)ラフォーレ蔵王にて開催。全国から 20 名の若手医師が参加。
- 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発継続。
- 東北ブロック傘下の連携医療機関の患者を通じたりハビリテーション技法の臨床効果のデータ集積。
- 医学的にリハビリテーションを受けた患者の長期帰結と福祉モデルにおける評価方法の研究継続。
- 高次脳機能障害者の認知リハとその後の社会復帰状況の共同調査を進める。
- 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発。

2. 就労支援体制の整備継続

- 東北ブロック各県下での自立支援法による高次脳機能障害者受け入れ可能な施設の調査を踏まえた実用的なネットワーク構築
- 就学・就労支援状況の実態調査

3. 東北ブロック拠点機関

青森県 財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーション病院 0172-45-2231(代)

秋田県 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 018-892-3798(直)

岩手県 財団法人 いわてリハビリテーションセンター 019-692-5800(代)

山形県 山形県高次脳機能障がい者支援センター・国立病院機構山形病院 023-681-3394(代)

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター・庄内医療生活協同組合鶴岡協立リハビリテーション病院 0235-78-7511(代)

宮城県 宮城県リハビリテーション支援センター 022-286-3222(代)

学校法人 東北薬科大学病院 022 - 259-1221 (代)

福島県 財団法人 脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 024 - 934-5564 (直)

<平成 25 年度 東北ブロック会議>

第 1 回 平成 25 年 10 月 27 日 (日) 11:00~11:45 場所: 岩手県産業会館会議室

出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県 参加者 計 21 名
議事

- 1) 東北ブロックシンポジウムの開催について
- 2) 各県の高次脳機能障害者支援の取り組みおよび現状報告
- 3) 東北ブロックの今後の取り組みについて
- 4) その他連絡事項

今回のブロック会議について 平成 25 年 2 月頃 仙台にて

次年度の東北ブロックシンポジウムについて 平成 26 年 11 月 30 日 (日) 仙台市国際センター (第 38 回日本高次脳機能障害学会 市民公開講座として)

宮城県の拠点施設: 宮城県リハビリテーション支援センターが平成 25 年度より名取市に移転し、東北厚生年金病院が経営母体の変更とともに学校法人東北薬科大学病院に名称変更となった。

第 2 回 平成 26 年 1 月 24 日 (金) 14:00~16:30 場所: 宮城県庁舎保健福祉部会議室

出席自治体 青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県、オブザーバー参加 仙台市 参加者計 23 名

議事

- 1) 今年度の東北ブロックの活動

ブロックシンポジウム報告 (別紙報告書参照) 岩手県産業会館で県内外から 160 名参加。その内、当事者家族 24 名参加。開催により、高次脳機能障害は広く普及されてきたことを実感。アンケートの結果より、講演の内容は非常に参考になった、岩手県の取組みは良く理解できたが、一カ所の拠点では広域を網羅するのは難しい、次年度以降もシンポジウム開催継続の希望、など好評であった。

若手医師向けセミナー「夏の学校」を開催し、若手を中心に秋田から岡山まで全国規模で神経内科医・精神科医・リハ医などが 20 名参加した。熱心なリピーターもあり、講義の内容も毎回リニューアルさせつつ、次年度も開催し、広義の高次脳機能障害をしっかりと診ることが出来る医師の育成に努めたい。(詳細は別紙参照)

- 2) 各県の取り組みについて自己紹介をかねて報告。(報告書参照)
- 3) 宮城県の取り組みの紹介 宮城県リハビリテーション支援センター 永澤氏・渡邊氏 支援マップ作成と協力拠点病院指定の動き、高次脳機能障害連携パスの試用について
- 4) 東北ブロックシンポジウム開催について 平成 26 年度 1 月 30 日 (日) 仙台国際センターで開催予定。第 38 回日本高次脳機能障害学会の市民公開シンポジウムとして開催。

【各県における取り組み（平成24年4月～平成25年3月までの集計）】

<青森県>

支援拠点機関名：一般財団法人黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）：2名（ともに医療相談員）

当事者／家族からの直接相談のべ件数（26年度の3月31日まで）

電話	45件
来院／来所	266件
メール・書簡	3件
その他（訪問・出張・同行等）	9件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（26年度の3月31日まで）

電話	65件
来院／来所	1件
メール・書簡	1件
その他（訪問・出張・同行等）	1件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

拠点機関検討委員会	1回	参加者：11名
院内スタッフ会議	10回（月1回程度）	参加者：毎回10名前後
青森県高次脳機能障害者リハビリテーション講習会（2013/9/21）		参加者：139名
家族交流会	4回	参加者：19名、11名、11名、16名
院内ケース会議	4回	計24名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など）

平成25年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会（2013/6/16～2013/6/18）	参加者：2名
高次脳機能障害者支援マップ作成事業ワーキング検討会議	2回 参加者：2名
いわて脳外傷友の会イーハトーブ主催講習会、家族会東北地区交流会（2013/7/20）	参加者：1名（家族会代表者に同行）
平成25年度東北ブロック会議（2013/10/27・2014/1/24）	参加者：3名
全国連絡協議会（6月・2月）	参加者：3名
全国コーディネーター会議（6月・2月）	参加者：2名
院内メディカルスタッフ勉強会（2014/2/25）	参加者：1名
青森ハローワーク3回	参加者：3名
青森県高齢者等地域リハビリテーション広域支援センター研修会(2013/7/2)	参加者：1名

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

ホームページの更新

リーフレットの修正

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

マップ作成事業への参加 二次アンケート送付済み・アンケート回収中

診断評価・リハビリテーションなど

外来での診断、評価、診断書作成等

入院でのリハビリテーション

その他の支援活動

家族会への支援

・家族交流会企画会議への参加（2013/12/14・/1/19・/3/29）参加者：3名

・事務局立上の支援

<秋田県>

支援拠点機関名：秋田県高次脳機能障害相談・支援センター

（秋田県立リハビリテーション・精神医療センター内）

支援コーディネーター（職種）：2名(作業療法士1名 精神保健福祉士1名)

当事者／家族からの直接相談のべ件数（H25年4月1日～H26年3月31日まで）

電話 30件

来院／来所 3件

メール・書簡 3件

その他（訪問・出張・同行等） 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（H25年4月1日～H26年3月31日）

電話 43件

来院／来所 3件

メール・書簡 20件

その他（訪問・出張・同行等） 16件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

ケース会議(高次脳機能障害入院患者に対する院内カンファレンス) 78回 624名

高次脳機能障害講演会（日本損害保険協会助成）1回 103名

対象：当事者とその家族、医療・福祉・行政などの分野で高次脳機能障害に関わる方、高次脳機能障

害に興味がある方

認知症・高次脳機能障害連携ネットワーク勉強会 3回 149名

(認知症疾患医療センターの開設に伴い、高次脳機能障害支援拠点機関の周知・活用の促進を目的に開催)

支援普及事業支援担当職員研修会 3回 79名

対象：行政、医療機関、相談事業所、就労関係事業所、地域包括支援センター等

支援普及事業相談支援ネットワーク委員会 1回 委員6名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

平成25年度第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

平成25年度第1回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会

平成25年度第1回東北ブロック会議及び東北ブロックシンポジウム

平成25年度第2回東北ブロック会議

平成25年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

平成25年度第2回高次脳機能障害支援普及全国連絡協議会およびシンポジウム

平成25年度秋田県精神保健福祉協会秋田市支部研修会

高次脳機能障害家族会 4回参加

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

ウェブサイト

・秋田県ホームページ

・秋田高次脳機能障害相談・支援センターホームページ開設

秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会での質問事項を元にしたQ&Aとアンケート集計結果を公開

平成24年度作成パンフレットの配布

・秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 外来待合室に設置

・高次脳機能障害講演会参加者に配布

・秋田県高次脳機能障害支援普及事業研修会にて配布

ポスター配布

・病院(急性期病院・リハビリ病院・精神病院)、介護保険施設、老人福祉施設、総合支援施設
516ヶ所に配布

・秋田県立リハビリテーション・精神医療センターに掲示

診断評価・リハビリテーションなど

専門外来

入院、リハビリテーション

その他の支援活動 家族会支援（郵送物作成・送付、連絡調整、会報配布）

<岩手県>

支援拠点機関名：いわてリハビリテーションセンター

支援コーディネーター（職種）：社会福祉士 2 名、臨床心理士 2 名

当事者 / 家族からの直接相談のべ件数（25 年 3 月 31 日まで）

電話	125 件
来院 / 来所	433 件
メール・書簡	21 件
その他（訪問・出張・同行等）	19 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（25 年 3 月 31 日まで）

電話	218 件
来院 / 来所	23 件
メール・書簡	33 件
その他（訪問・出張・同行等）	22 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会	4 回 83 人（連絡協議会、ワーキンググループ会議）
研修会・講習会	6 回 334 人（コーディネーター養成研修会、就労支援研修会、就学支援研修会等）
ケース会議	12 回 96 人
勉強会・研究会	0 回
家族会・交流会	4 回 94 人

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など）

連絡会・協議会	15 回 212 人（リハビリテーション広域支援センター会議等に出席）
研修会・講習会	5 回 476 人（脳損傷リハビリテーション講習会等に運営協力を行った）
ケース会議	1 回 10 人
勉強会・研究会	0 回
家族会・交流会	1 回 12 人（脳外傷友の会イーハトーヴ県南支部主催の家族教室に職員 2 名を派遣）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・平成 24 年度にパンフレット、支援マップを作成。
- ・平成 19 年度にホームページを開設。平成 24 年度にリニューアル。
- ・平成 25 年度よりメールニュースの配信を開始。

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ・平成 24 年度に医療・福祉の支援機関マップを作成。
- ・平成 25 年度に支援者向けの手引書を作成。作成に向けて各支援機関を対象に調査を実施した。

診断評価・リハビリテーションなど

- ・予約制で高次脳機能障害外来を実施している。
- ・外来リハビリは患者の状況に応じて週に 1～2 回程度行っている。

その他の支援活動

- ・自動車運転評価の仕組みづくりに向けて大分県内病院 3 カ所の視察を行った。
- ・脳外傷友の会イーハトーヴと協働し、製品を企画「りはせんベイ」、平成 26 年度より販売予定。

<山形県>

支援拠点機関名：

山形県高次脳機能障がい者支援センター（独立行政法人国立病院機構山形病院内）

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター（庄内医療生活協同組合 鶴岡協立リハビリテーション病院内）

支援コーディネーター（職種）：社会福祉士

当事者／家族からの直接相談のべ件数

電話	159件（内訳・・・山形 78件、庄内 81件）
来院／来所	153件（内訳・・・山形 102件、庄内 51件）
メール・書簡	17件（内訳・・・山形 2件、庄内 15件）
その他（訪問・出張・同行等）	9件（内訳・・・山形 5件、庄内 4件）
計	338件（内訳・・・山形 187件、庄内 151件）

機関・施設等からの間接相談のべ件数（25年度の3月31日まで）

電話	125件（内訳・・・山形 74件、庄内 51件）
来院／来所	10件（内訳・・・山形 9件、庄内 1件）
メール・書簡	10件（内訳・・・山形 1件、庄内 9件）
その他（訪問・出張・同行等）	0件（内訳・・・山形 0件、庄内 0件）
計	145件（内訳・・・山形 84件、庄内 61件）

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会 相談会・ケース会議など）

第1回山形県高次脳機能障がい研修会（H25.7.5）対象：医療福祉関係者、参加人数：156名

内容：講演「高次脳機能障害の基礎知識」

パネルディスカッション「病院から地域まで～事例から～」

講師：山形大学大学院医学系研究科 高次脳機能障害学教授 鈴木匡子氏

医師、OT、MSW、就業・生活支援ワーカー、生活支援員、通所教室スタッフ

対象：医療福祉関係者、参加人数：156名

高次脳機能障がい者支援センター運営委員会 6回開催 出席者：病院内スタッフ

巡回相談（H.25.10.23、H.25.11.28）

置賜地区：相談件数 0件 懇談会対象者：医療福祉関係者 内容：事例検討 参加者：13名

最上地区：相談件数 4件 懇談会対象者：医療福祉関係者 内容：事例検討 参加者：18名

第2回山形県高次脳機能障がい研修会（H26.2.7）

内容：「高次脳機能障害支援におけるピアカウンセラーの役割」 事例検討・グループワーク

講師：みやぎ脳外傷友の会 七夕 代表 ピアカウンセラー 佐々木智賀子氏

対象：医療福祉関係者、参加人数：63名

○4/10 茶話会 5名参加

- 5/30 茶話会 4名参加
- 6/12 茶話会 9名参加
- 7/10 茶話会 7名参加
- 9/18 茶話会 8名参加
- 11/6 ケース会議 30代女性 7名参加
- 11/20 茶話会 7名参加
- 11/30 平成25年度山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター 研修会 59名参加
- 12/17 ケース会議 10代男性(中学生)13名参加
 - 1/7 ケース会議 10代男性(中学生)13名参加
 - 2/19 茶話会 1名参加

主催はしていないが、協力・出席した会合(研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など)

高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会 第1回への参加(H25.5.12)

平成25年度第1回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・連絡協議会への出席
(H25.6.25、H25.6.26)

平成25年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会への参加(H25.6.26~H25.6.28)

平成25年度就業支援基礎研修への参加(H25.7.8・9・19)

高次脳機能障害講演会 当事者が伝えたいこと 参加(主催:NPO法人いわて脳外傷友の会、朝日新聞厚生文化事業団)(H25.7.20)

第14回高次脳機能セミナーへの参加(H25.7.30)

高次脳機能障害 実践的アプローチ講習会 第2回への参加(H25.8.11)

みんな違って、みんないい…みんな一緒! vol.4への参加(H25.8.10)

山形県自立支援協議会 平成25年度第1回相談支援研究会への出席(H25.8.20)

高次脳機能障がい者支援コーディネーター研修会への出席(H25.9.27)

日本脳外傷友の会 第13回全国大会2013in大分への参加(H25.9.28)

第7回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会(日本損害保険協会助成)(H25.10.12)

内容:特別講演「当事者となった高次脳機能障害専門家の経験」

パネルディスカッション「山形県高次脳機能障がい者支援の現状と課題」

講師:三鷹高次脳機能障害研究所所長 神戸大学大学院保健学研究科客員教授 言語聴覚士

医学博士 関啓子氏、

酒田市福祉課、鶴岡協立リハビリテーション病院 OT、山形障害者職業センター、当事者・家族、
当センターコーディネーター

対象:当事者、家族、医療福祉関係者、関心のある方 参加人数:177名

第1回東北ブロック会議・シンポジウムへの出席(H25.10.27)

山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター研修会への参加(H25.11.30)

第2回東北ブロック会議への出席(H26.1.24)

平成25年度第2回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議・連絡協議会・公開シンポジウム出

席 (H26.2.20,21)

山形県自立支援協議会 出席 (H26.3.4)

ケース会議 10 回 参加者：本人、家族、医療関係者、福祉関係者、事業所担当者

○平成 25 年度第 1 回高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議 6/25 ~ 6/26 (埼玉県)

○第 1 回山形県高次脳機能障がい研修会 7/5 (山形市)

○さくらんぼの会 定例会 7/14 (鶴岡市)

○第 7 回高次脳機能障がいリハビリテーション講習会第 1 回実行員会 8/8 (山形市)

○第 7 回高次脳機能障がいリハビリテーション講習会 10/12 (山形市)

○平成 25 年度東北ブロック会議 10/27 (岩手県)

○平成 25 年度第 2 回東北ブロック会議 1/24 (宮城県)

○平成 25 年度第 2 回山形県高次脳機能障がい研修会 2/7 (山形市)

広報・啓発活動 (パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など)

急性期病院向けパンフレット作成・配布・郵送

研修会案内郵送

○関係機関へのパンフレット配布・郵送

○研修会案内郵送

調査・情報収集活動 (実態調査・地域支援機関マップの作成など)

「就業支援基礎研修受講者の所属長アンケート」(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
障害者職業総合センター 職業リハビリテーション部研修課)への回答

「高次脳機能障害のあるこどもに関する相談支援状況調査」(平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」研究代表者 中島 八十一)への回答

「高次脳機能障害のあるこどもに関する相談支援状況調査」(平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」研究代表者 中島 八十一)への回答

診断評価・リハビリテーションなど

高次脳機能障害専門外来での診断評価

入院、通院におけるリハビリテーションの実施

○診断 (新規) 12 名 診察延べ 66 名 実受診人数 24 名

○リハビリ評価 (新規) 9 名 継続延べ 8 名

その他の支援活動

高次脳機能障がい通所教室「暁才」の運営

のべ利用者数 (H25.4.1 ~ H26.3.31) 1,668 名

見学・視察者数 (H25.4.1 ~ H26.3.31) 74 名

利用登録者数 (H25.4.1 ~ H26.3.31) 68 名

就職者数 (開所時 ~ H26.3.31 現在) 20 名

利用者施設見学同行 (H.25.12.25・26)(H.26.3.26)

第20回ふれ愛募金贈呈式 (H25.11.6)

山形県高次脳機能障がい者家族会「さくらんぼ」との連携 総会・定例会 4回

5/12	第5回定期総会	3名参加	
7/14	定例会「みんなでしゃべっぺ!!」	1名参加	
9/8	定例会 芋煮会	5名参加	
11/10	定例会 会報作成	2名参加	
1/12	定例会 鍋合戦	2名参加	
3/9	定例会「私が当事者家族に伝えたいこと」	5名参加	計6回

は、山形県高次脳機能障がい者支援センター実施分

○は、山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター実施分

<宮城県>

支援拠点機関名 : 宮城県リハビリテーション支援センター

支援コーディネーター(職種) 作業療法士1名 言語聴覚士1名

当事者/家族からの直接相談のべ件数(25年度の3月31日まで)

電話	73件
来院/来所	368件
メール・書簡	0件
その他(訪問・出張・同行等)	20件

機関・施設等からの間接相談のべ件数(25年度の3月31日まで)

電話	136件
来院/来所	11件
メール・書簡	0件
その他(訪問・出張・同行等)	15件

主催した会合・対象者・参加人数(研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など)

【連絡会・協議会】 1回開催・延べ 32人参加

- ・高次脳機能障害医療ネットワーク会議 1回
- ・高次脳機能障害地域連携パス検討会 7回

【研修会・講習会】 7回開催・延べ 424人参加

・圏域研修：4 回開催・延べ 203 人参加

- （仙南保健福祉事務所） 1 回開催・延べ 71 人参加
- （東部保健福祉事務所） 1 回開催・延べ 33 人参加
- （北部保健福祉事務所栗原地域事務所） 1 回開催・延べ 36 人参加
- （東部保健福祉事務所登米地域事務所） 1 回開催・延べ 63 人参加

・基礎研修：2 回開催・延べ 131 人参加

- （リハビリテーション支援センター） 2 回開催・延べ 131 人参加
 - 高次脳機能障害支援スタッフ研修会 基礎研修 1
「高次脳機能障害について、活用できる制度について、事業概要について」
平成 25 年 5 月 24 日（金） 参加者：61 名
 - 高次脳機能障害支援スタッフ研修会 基礎研修 2
「高次脳機能障害の理解と対応・生活支援の必要性」
「高次脳機能障害者への関わりとこころづすでの取り組みについて」
平成 25 年 12 月 13 日（金） 参加者：70 名

・広域研修：1 回開催・延べ 90 人参加

「高次脳機能障害児の豊かな学びのために～教育現場にわかってほしいこと教育現場がしりたいこと～」

講師：千葉県千葉リハビリテーションセンター 太田令子 氏

平成 25 年 7 月 27 日（金） 参加者：90 名

【ケース会議】 16 回開催・延べ 105 人参加

（リハビリテーション支援センター） 15 回開催・延べ 102 人参加

（北部保健福祉事務所） 1 回開催・延べ 3 人参加

【勉強会・研究会】 7 回開催・延べ 65 人参加

（リハビリテーション支援センター）

【家族会・交流会】 28 回開催・延べ 196 人参加

（仙南保健福祉事務所） 2 回開催・延べ 11 人参加

（仙台保健福祉事務所黒川支所） 1 回開催・延べ 8 人参加

（北部保健福祉事務所） 2 回開催・延べ 22 人参加

（北部保健福祉事務所栗原地域事務所） 1 回開催・延べ 7 人参加

（東部保健福祉事務所） 2 回開催・延べ 20 人参加

（気仙沼保健福祉事務所） 12 回開催・延べ 94 人参加

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・

交流会相談会・ケース会議など)

- ・高次脳機能障害ネットワーク会議他 13回
- ・研修会・講習会 17回
- ・ケース会議 9回
- ・勉強会等 20回
- ・保健福祉事務所主催家族交流会 5回

広報・啓発活動(パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など)

パンフレット配布,ウェブサイト更新,FM放送,市広報掲載

調査・情報収集活動(実態調査・地域支援機関マップの作成など)

- ・高次脳機能障害者が利用可能な事業所調査
- ・高次脳機能障害地域連携パス作成
- ・高次脳機能障害支援マップ作成
- ・高次脳機能障害診断マニュアル作成

診断評価・リハビリテーションなど

- ・高次脳機能障害外来評価 延べ 25件
- ・リハビリテーション 延べ 335件

支援機関名 : 学校法人東北薬科大学病院

支援コーディネーター(職種) 言語聴覚士 1名 医療ソーシャルワーカー 1名

当事者/家族からの直接相談のべ件数

- 電話 15件
- 来院/来所 23件
- メール・書簡 1件
- その他(訪問・出張・同行等) 1件

機関・施設等からの間接相談のべ件数(25年度の12月31日まで)

- 電話 14件
- 来院/来所 0件
- メール・書簡 0件
- その他(訪問・出張・同行等) 0件

主催した会合・対象者・参加人数(研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など)

- ・ 宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第一回専門研修会 視覚認知の高次脳機能障害 平成 25 年 9 月 27 日 講師：山形県立保健医療大学 作業療法学科教授 平山和美先生 参加人数 157 名
- ・ 宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第二回専門研修会 高次脳機能障害の基礎的理解 平成 26 年 2 月 14 日 講師：山形大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学講座教授・山形県高次脳機能障害支援センター顧問 鈴木匡子先生 参加人数 127 名
参加職種：医療・介護専門職(医師・看護師・ST・OT・PT・SW・介護福祉士・ケアマネージャー 他) 行政機関専門職
- ・ ケース会議 126 回 参加延べ人数 1146 人
- ・ 院内連絡会議 2 回 第一回 高次脳機能障害支援に関する当院での体制について 参加延べ人数 15 名
第二回 高次脳機能障害支援連携パスについての説明会 参加延べ人数 30 名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会相談会・ケース会議など）

- ・ 宮城県高次脳機能障害地域連携パス作成検討会 2 回出席（平成 25 年 8 月 1 日、11 月 14 日、3 月 18 日）
- ・ 第一回東北ブロック会議・シンポジウム（平成 25 年 10 月 27 日）
- ・ 東北大学大学院高次脳機能障害学分野主催 行動神経学 夏の学校（平成 25 年 8 月 4~5 日）
- ・ あきた高次脳機能障害支援の会主催 日本損害保険協会助成 高次脳機能障害講習会 講師参加 平成 25 年 12 月 15 日）
- ・ 平成 25 年度仙台市障害者総合支援センター主催 高次脳機能障害支援事業主催研修 講師参加(平成 25 年 12 月 20 日)

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD 等の発行や配布など）

- ・ 東北薬科大学病院に名称変更と同時に配布パンフレットの改訂を実施。
- ・ 高次脳機能障害支援普及事業専門研修会案内の HP 掲載

調査・情報収集活動（実態調査・地域支援機関マップの作成など）

- ・ 多発性硬化症・視神経脊髄炎の高次脳機能評価開始

診断評価・リハビリテーションなど

- ・ 神経内科及び回復期リハビリテーション病棟入院及び専門外来(リハ科・神経内科)にて評価リハビリテーション実施

<仙台市>

* 支援機関名（仙台市）：仙台市障害者総合支援センター

支援コーディネーター（職種）：4 名（心理判定員、作業療法士、社会福祉士、心理判定員）

当事者 / 家族からの直接相談の件数（25 年度の 3 月 31 日まで）

電話

59 件

来院 / 来所	47 件
メール・書簡	3 件
その他（訪問・出張・同行等）	54 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数（25年度の3月31日まで）

電話	20 件
来院 / 来所	4 件
メール・書簡	0 件
その他（訪問・出張・同行等）	18 件

主催した会合・対象者・参加人数（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など）

〔研修会〕

高次脳機能障害のリハビリテーション～医療から地域への連携を考える・医療関係者および地域の支援者・45名

主催はしていないが、協力・出席した会合（研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など）

- ・高次脳機能障害者就労支援連絡会議（主催：仙台市就労支援センター）
- ・平成25年度障害者雇用促進セミナー、働く高次脳機能障害のある方からのメッセージ（主催：仙台市）
- ・平成25年度宮城県高次脳機能障害研修事業 基礎研修2（主催：宮城県リハビリテーション支援センター）
- ・平成25年度高次脳機能障害支援事業関係職員研修会（主催：国立障害者リハビリテーションセンター）
- ・高次脳機能障害セミナー・小児編 小児・後天性脳損傷セミナー（主催：神奈川リハビリテーション病院）

広報・啓発活動（パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など）

- ・当所ホームページ内での広報（継続）
- ・リーフレット（継続）

<福島県>

支援拠点機関名：一般財団法人 脳神経疾患研究所 附属 総合南東北病院
福島県高次脳機能障がい支援室

支援コーディネーター（職種）： 社会福祉士 2名

当事者 / 家族からの直接相談のべ件数 (25年度の3月31日まで)

電話	48 件
来院 / 来所	30 件
メール・書簡	0 件
その他 (訪問・出張・同行等)	2 件

機関・施設等からの間接相談のべ件数 (25年度の3月31日まで)

電話	70 件
来院 / 来所	49 件
メール・書簡	0 件
その他 (訪問・出張・同行等)	3 件

主催した会合・対象者・参加人数 (研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・交流会
相談会・ケース会議など)

- ・平成25年度 福島県高次脳機能障がい支援研修会 (平成25年11月10日 180名参加)
- ・症例報告会 (いわき地区) (平成26年3月3日 18名参加)
- ・患者・家族サロン (毎月第3土曜日開催) (計45名)

主催はしていないが、協力・出席した会合 (研修会・講習会・連絡調整会議・協議会・委員会・勉強会・
交流会相談会・ケース会議など)

- ・県担当者研修会 (平成25年10月3日)
- ・第3回 脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会研修会 (平成25年11月2日・3日)
- ・東北ブロックシンポジウム (平成25年10月27日)
- ・ケース会議 1件 (昭和村)

広報・啓発活動 (パンフレット・機関誌・ウェブサイト・冊子・DVD等の発行や配布など)

- ・福島県高次脳機能障がい支援室パンフレット配布

平成26年1月24日

厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」
平成25年度東北ブロックシンポジウム

「高次脳機能障害者の社会参加推進のため」実施結果報告書

厚生労働科学研究費 障害者対策総合研究事業

「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

東北ブロック統括 森悦朗

(東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授)

各県よりご後援をいただきました平成25年度東北ブロックシンポジウムにつきましてはお陰様で下記の通り実施することができました。

記

1. 実施日：平成25年10月27日(日)
2. 実施場所：岩手県産業会館大ホール
〒020-0022 岩手県盛岡市大通1丁目2-1
3. 参加者数：160名(岩手県94名 県外参加者66名)
4. その他：当日配布したパンフレット

以上

平成25年度厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」
東北ブロックシンポジウム
TOHOKU BLOCK SYMPOSIUM
-高次脳機能障害者の社会参加推進のため-

対 象：高次脳機能障害者にかかわる医療・福祉・教育・行政機関担当者
高次脳機能障害当事者およびご家族等 一般市民
参加費：無料

第1部 「高次脳機能障害の臨床的対応」
議長／東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学分野教授 森悦朗先生
「高次脳機能障害の基礎的理解」 鈴木匡子先生
「高次脳機能障害の自動車運転について」 蜂須賀研二先生

第2部 「高次脳機能障害の社会的対応」
議長／岩手県リハビリテーションセンター 理事長 高橋明先生
「岩手県の高次脳機能障害 支援普及事業の実績と今後の展望」 高次脳機能障害支援コーディネーター 上田大介先生
「高次脳機能障害支援普及事業の 動向と今後の展望」 国立障害者リハビリテーションセンター 高次脳機能障害情報・支援センター長 中島八十一先生

平成25年
10月27日(日)
13:00~16:30
岩手県産業会館
大ホール
〒020-0022 岩手県盛岡市大通1丁目2-1
TEL:019-6263152

主催：厚生労働科学研究費補助金 障害者対策総合研究事業「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」東北ブロック
協賛：岩手県 秋田県 青森県 山形県 宮城県 福島県
協賛 関係実行委員長：森悦朗(東北ブロック統括責任者) 東北大学医学系研究科高次脳機能障害学分野 教授

協賛/後援先：東北大学病院 岩手県立病院 岩手県立大学
電話/022-259-1221(内線574) FAX/022-395-8768(高森)
岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課
岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課
岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課
岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課
岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課

申し込み先
岩手県 岩手県リハビリテーションセンター
TEL:019-6263152 FAX:019-692-5507
岩手県 岩手県リハビリテーションセンター
TEL:019-6263152 FAX:019-692-5507

東北ブロックシンポジウム
TOHOKU BLOCK SYMPOSIUM

プロフィール

鈴木 匡子 先生
山形大学大学院医学系研究科
高次脳機能障害学講座教授
1964年 山形県山形市生まれ
1984年 東北大学理学部理学系理学専攻理学専攻卒業
1986年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻修士課程修了
1988年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻博士課程修了
2007年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2008年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2010年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2011年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2012年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2013年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2014年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2015年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2016年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2017年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2018年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2019年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2020年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2021年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2022年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2023年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2024年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2025年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授

蜂須賀研二 先生
産業医科大学
リハビリテーション医学講座教授
1964年 山形県山形市生まれ
1984年 東北大学理学部理学系理学専攻理学専攻卒業
1986年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻修士課程修了
1988年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻博士課程修了
2007年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2008年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2010年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2011年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2012年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2013年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2014年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2015年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2016年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2017年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2018年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2019年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2020年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2021年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2022年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2023年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2024年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2025年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授

上田 大介 先生
国立障害者リハビリテーションセンター
高次脳機能障害支援コーディネーター
1964年 山形県山形市生まれ
1984年 東北大学理学部理学系理学専攻理学専攻卒業
1986年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻修士課程修了
1988年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻博士課程修了
2007年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2008年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2010年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2011年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2012年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2013年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2014年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2015年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2016年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2017年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2018年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2019年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2020年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2021年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2022年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2023年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2024年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2025年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授

中島八十一 先生
国立障害者リハビリテーションセンター
高次脳機能障害情報・支援センター長
1964年 山形県山形市生まれ
1984年 東北大学理学部理学系理学専攻理学専攻卒業
1986年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻修士課程修了
1988年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻博士課程修了
2007年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2008年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2010年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2011年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2012年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2013年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2014年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2015年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2016年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2017年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2018年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2019年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2020年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2021年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2022年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2023年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2024年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授
2025年 山形大学大学院理学系理学専攻理学専攻教授

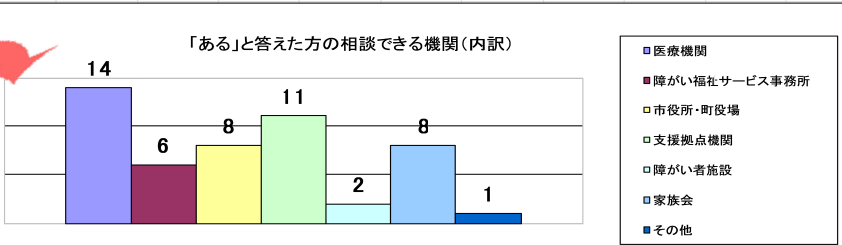
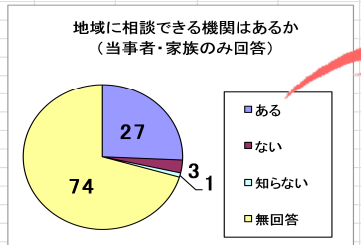
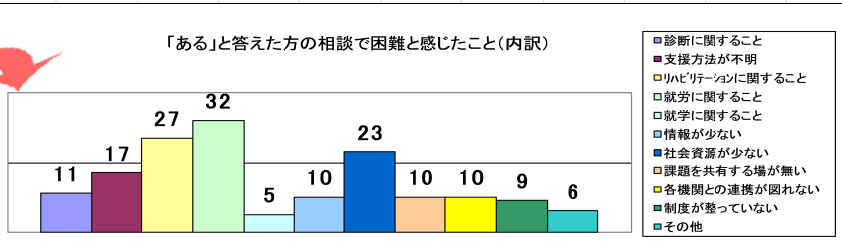
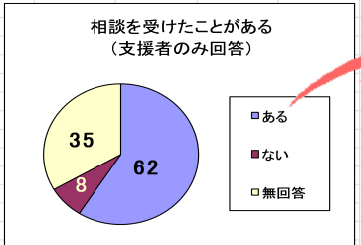
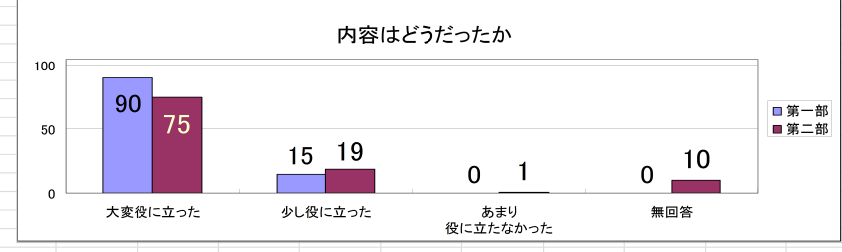
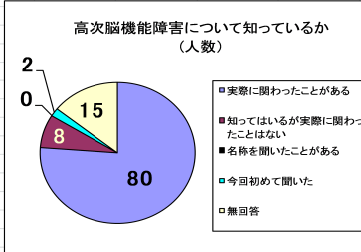
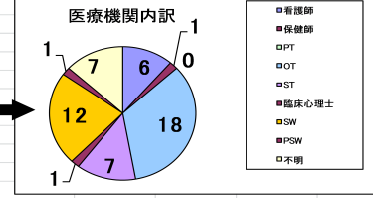
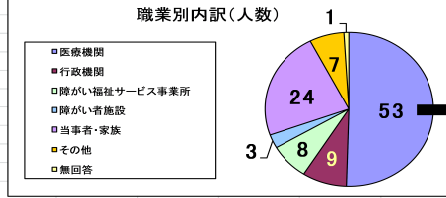
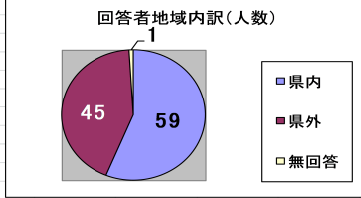
高次脳機能障害者支援拠点機関一覧

岩手県	岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:019-6263152
秋田県	秋田県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:018-892-3798
青森県	青森県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:019-692-5800
山形県	山形県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:023-561-3394
宮城県	宮城県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:0235-76-7611
福島県	福島県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:023-784-3662
岩手県	岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:02-259-1221
岩手県	岩手県 福祉・保健 社会福祉部福祉政策課福祉推進課	TEL:02-4934-5564

会場案内
徒歩 盛岡駅から15分 盛岡南インターから5分
バス 盛岡駅前バス約7分 盛岡駅前バス約15分(盛岡駅西口から徒歩1分) 盛岡駅前バス約15分(盛岡駅西口から徒歩1分)

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究 東北ブロックシンポジウム アンケート集計結果

回答者数 105人



主な感想

- どの講話も興味深く拝聴させていただきました。
- 臨床現場で働いていますが、年齢を問わず自動車運転を希望される方がいます。どのように支援したらよいかいつも悩んでいます。大変勉強になりました。
- 車の運転は岩手は絶対に必要と思う。シュミレーション検査の導入を大至急検討してほしい。
- 鈴木先生のお話が分かりやすくて良かったです。一般の方にももっと知ってもらいたいと思いました。
- 匡子先生のご講話は大変わかりやすく聞きやすかったです。具体例の提示が良かったと思います。自動車運転の問題はピアカウンセリングの場でもよく話題になります。本人と家族の思いに大きな違いがあるのもこの課題だと思います。
- 支援拠点機関の取り組み内容が良く分かった。岩手県に1ヶ所というのは広いので対応が難しいことと思います。
- 家族会との協働や地域の核となる支援者の養成など患者の周囲における理解を進め、環境を改善していくことも大切であると改めて感じた。
- 高次脳機能障害者が在宅で生活できるだけでなく地域に居場所となる支援場所が今後増えていくとよかったです。
- 岩手での現状が分かったし、高次脳機能障害に対する支援の現状、方法を事例によって学べた。どのように居場所作りや支援をするか大変参考になった。
- 岩手の取り組みがとてもよくなりました。八十一先生のお話はいつも楽しく難しいお話も聞きやすいカタチで教えていただけますし、未来に希望が持てます。
- 今後例えば家族が死亡し、1人になった時には、どのような支援、機関があるか等の研修も欲しい。当事者も家族も高齢になってきています。
- 13:00~16:30の時間配分が欲しかった。基礎疾患の理解～行政的なこと、各機関の取り組み、今後の展望など。一連の内容が盛り込まれていて非常に良かった。
- 市町村の現場に高次脳機能障害者への支援をできる職員が少ない。多くの場合、保健師がその役割を担うことになると思うが、保健師に、その知識がないのではないかと思います。

パワーポイントの資料を手元に配布していただき良かった。大変参考になりました。ありがとうございました。

患者さんの今現在のことしか考えていなかったと反省した。どうやって関わるかを考え、次に患者さんに関わる方へしっかりと伝えることをしていきたい。

最先端を歩かれている方々に感謝いたします。身近にいらしゃることも充分認識しておりますが、この病名は初めて耳にした気がします。一つ一つ病名をお聞きするとうなづけますが、別の意味で関わっており、これからはますます関わるであろう内容に微力ながら少しずつ参加させていただきます。現在多少、関わっている私共です。

大変勉強になりました。是非、今後も東北ブロックシンポジウムが継続的に開催されますことを希望しております。



行動神経学 夏の学校 2013 実施報告



日時 2013年8月4日(日)10時30分
～8月5日(月)15時30分

場所 ラフォーレ蔵王

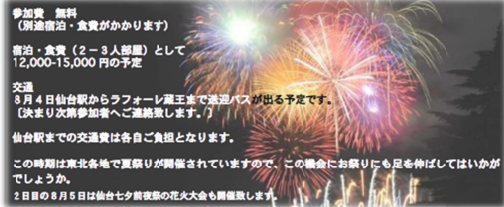
主催
東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学
厚生労働省科学研究費補助金
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

日程

8月4日(日)	
10:30~11:30	行動神経学総論(森)
11:30~13:00	視空間・注意の障害(鈴木)
昼休み	
14:00~15:30	大脳半球の左右差・脳梁離断(鈴木)
15:30~17:00	視覚の障害・失認(平山)
休憩	
17:10~18:10	機能解剖(飯塚)
18:10~19:40	行為の障害・失認(平山)
終了後～懇親会	

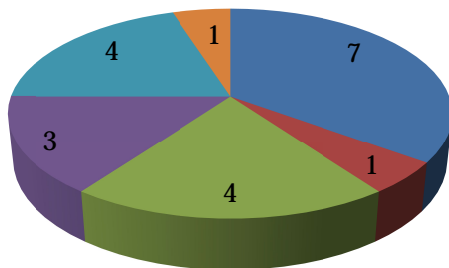
8月5日(月)	
8:00~9:00	前頭葉機能障害(森)
9:00~10:30	記憶の障害・認知症(松田)
10:30~12:00	言語の障害・失語①(飯塚)
昼休み	
13:00~14:30	言語の障害・失語②(松田)
14:30~15:30	せん妄と病態の治療(森)
終了後～解散	

講師：森 悦朗(東北大高次脳機能障害科)
鈴木 匡子(山形大高次脳機能科)
平山 和美(山形保健医療大作業療法学科)
松田 実(東北大高次脳機能障害科)
飯塚 統(東北大高次脳機能障害科)



連絡先
東北大学大学院医学系研究科高次機能障害学 馬場まで
(電話) 022-717-7358 (FAX) 022-717-7360
(メール) tb0227@me.com
(フェイス・ブック) <https://www.facebook.com/TOHOKUKOUJI>

参加者の地域内訳



- 東北(秋田1,宮城6)
- 甲信越(長野)
- 関東(東京1,神奈川3)
- 東海(静岡1,三重2)
- 近畿(大阪1京都3)
- 中国・四国(岡山)

参加者所属診療科

神経内科	16
老年内科	1
リハビリテーション科	1
精神科	1
研修医	1



アンケート結果より いずれの講義もおおむね好評だったが、特に(10)言語の障害・失語、(3)視覚の障害・失認、(6)行為の障害・失認が好評だった。

平成 26 年度東北ブロック活動方針

1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用

- 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議(年度内 2 回)の開催。(第一回 仙台国際センター、第二回 宮城県仙台市を予定)
- 高次脳機能障害の啓発とサービスを利用していない高次脳機能障害者の減少を図ることを目的に、東北ブロックシンポジウムを宮城県仙台市にて開催。
平成 26 年 11 月 30 日(日) 9:30~13:00 仙台国際センター
(日本高次脳機能障害学会の市民公開シンポジウムとして)
- 東北ブロックの支援体制の均てん化、および各県内での支援体制の均てん化を図る。各県の支援拠点機関の充実と拠点機関拡充のための患者の評価と支援のあり方をさらに検討。
- 高次脳機能障害の診断医養成のため、若手を対象に平成 26 年 8 月 2 日(土)~8 月 3 日(日)ラフォーレ蔵王にて「行動神経学 夏の学校 2014」の開催
- 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発継続。
- 東北ブロック傘下の連携医療機関の患者を通じたリハビリテーション技法の臨床効果のデータ集積。
- 医学的にリハビリテーションを受けた患者の長期帰結と福祉モデルにおける評価方法の研究継続。
- 高次脳機能障害者の認知リハとその後の社会復帰状況の共同調査を進める。
- 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発継続。
- 高次脳機能障害者の自動車運転に関する評価の導入および共同研究に参画。

2. 就労支援体制の整備継続

- 東北ブロック各県下での自立支援法による高次脳機能障害者受け入れ可能な施設の調査を踏まえた実用的なネットワーク構築
- 就学・就労支援状況の実態調査

3. 東北ブロック拠点機関

青森県 一般財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 0172-28-8220(代)

秋田県 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 018-892-3798(直)

岩手県 財団法人 いわてリハビリテーションセンター 019-692-5800(代)

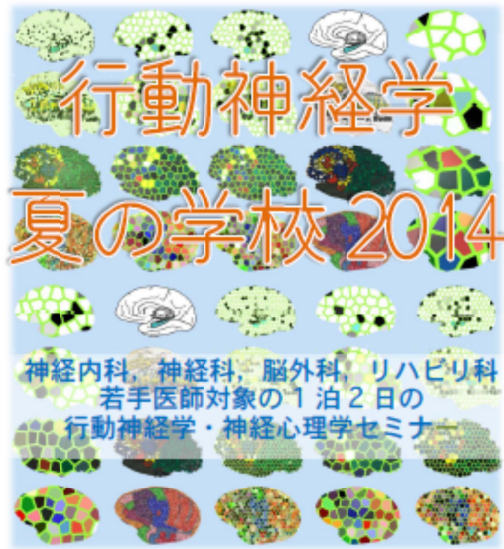
山形県 山形県高次脳機能障がい者支援センター・国立病院機構山形病院 023-681-3394(代)
山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター・庄内医療生活協同組合鶴岡協立リハビリテーション病院 0235-78-7511(代)

宮城県 宮城県リハビリテーション支援センター 022-784-3588(代)

学校法人東北薬科大学病院 医療連携センター 022-259-1221(代)

気仙沼市立病院 〒988-0053 宮城県気仙沼市田中 184 0226-22-7100(代) 予定

福島県 福島県高次脳機能障がい支援室 財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北 病院内
024-934-5322(代)



日時 2014年8月2日(土)10時30分
～8月3日(日)16時00分

場所 ラフォーレ蔵王

主催
東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学
厚生労働省科学研究費補助金
「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

日程

8月2日(土)		
10:30 - 11:30	行動神経学総論	森
11:30 - 13:00	視覚・注意の障害	鈴木
*** 昼休み ***		
14:00 - 15:00	大脳半球の左右差・脳萎縮	鈴木
15:00 - 16:30	読書の障害・失読	平山
*** 休憩 ***		
16:40 - 17:40	記憶の障害・健忘	西尾
17:40 - 19:30	行為の障害・失行	平山
*** 懇親会 ***		
8月3日(日)		
8:00 - 9:00	前頭葉機能障害	森
9:00 - 10:00	認知症	松田
*** 休憩 ***		
10:10 - 11:10	書簡の障害・失読症①	飯塚
11:10 - 12:10	機能解剖	飯塚
*** 休憩 ***		
13:00 - 14:00	書簡の障害・失読症②	松田
14:00 - 15:00	行動異常・精神症状	西尾
15:00 - 16:00	認知・行動障害の薬理	森
*** 終了後 解散 ***		

講師：森 悦朗 (東北大高次脳機能障害科)
鈴木 匡子 (山形大高次脳機能科)
平山 和美 (山形保健医療大作業療法学科)
松田 実 (東北大高次脳機能障害科)
飯塚 統 (東北大高次脳機能障害科)
西尾 慶之 (東北大高次脳機能障害科)

開催地 蔵王
(山形蔵王・食味がかりです)

価格・食事として20,000円の予定

交通
○8月2日昼会釈からラフォーレ蔵王まで無料バスが出ます。
(決まり次第参加者へご連絡します。)
○自費車までの交通費は各自負担となります。

この開催は東北各地で風評りが際出されていますので、この機会にお祭りにも足を伸ばしてはいかがでしょうか。

連絡先
東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学 西尾まで
(電話) 022-717-7358 (FAX) 022-717-7360
(メール) bncn.med.tohoku@gmail.com
(フェイス・ブック) <https://www.facebook.com/TOHOKUKOUJI>